



高名なお坊さん（その12）

鑑真 奈良時代の僧侶

唐の揚州に生まれ、14歳で出家し、洛陽・長安で修行を積み、713年に故郷の大雲寺に戻り、江南第一の大師と称されました。

天宝元年（742）、第九次遣唐使船で唐を訪れていた留学僧・栄叡（ようえい）、普照（ふしょう）から、朝廷の「伝戒の師」としての招請を受け、渡日を決意。

その後の12年間に5回の渡航を試みて失敗、次第に視力を失うこととなりましたが、天平勝宝5年（753）、6回目にして遂に日本の地を踏まれました。

鑑真は大坂難波、京都を経て平城京に到着した。朝廷から仏教行政の最高指導者“大僧都”に任命される。東大寺大仏殿の前に戒壇を築き、聖武上皇、孝謙天皇ら440名に国内初となる授戒を行なう。

755年、常設の授戒施設となる東大寺戒壇院を建立。戒壇院の地下には仏舎利（釈迦の遺骨、米粒ほどの大きさ）が埋められており、ここで250項目の規律を



鑑真和上坐像

守ることを誓い、受戒した者だけを国は僧侶と認めた。

以後、76歳までの10年間のうち5年を東大寺で、残りの5年を唐招提寺で過ごされ、天皇を始めとする多くの人々に授戒をされました。



唐招提寺に安置されている
国宝「鑑真和尚像」



戒壇堂（受戒のための最も神聖な場所）

住職レター

十一月も残り数日となり、そろそろ冬支度ならぬ、報恩講の準備であります。と同時に、今年を振り返る時期であり、一般的には、年末の大掃除に入る頃、また年賀状の準備に取り掛かる頃かもしれません。

私の今年は、例年になく、余裕の無い日々でありました。コロナ禍が収束傾向となり、コロナと共存の如く、社会活動が再開されたせい、いろんな歯車が、一気に動き出した、そのような感じであります。

時々、「コロナ禍の中、亡くなられる方が多くて、住職さんは忙しかったのでは？」と言われたりしますが、実は、そのような事はありませんでした。本来は、医療がひつ迫したせいで、亡くなられる方が増えると思われがちですが、そのような事は無く、むしろ、今年に入ってから、葬儀依頼が激増しました。

という訳で、私の今年の漢字は『忙』であり、未だやり残したことが多くあります。その筆頭が、善教寺ホームページのリニューアル。報恩講に参加しても、多くの皆さんから、ご指摘を受けました。ホームページを最後に更新したのは、いつ頃だったでし

ようか。思い出せないくらい前です。

寺の住職は、『忙』であってはなりません。なんせ、心を亡くすという意味があるから……。大晦日に除夜の鐘を撞いて、『忙』を洗い流しますね。



善教寺鐘楼堂